

## NHK 仙台災害報道研修会「大災害とメンタルヘルス～報道機関従事者が備えるべきこと～」を開催しました（2018/09/21）

テーマ：被災地での報道活動

場所：NHK 仙台カンファレンスルーム（宮城県仙台市）

9月21日（金）にNHK 仙台の災害報道研修会において、「大災害とメンタルヘルス ～報道機関従事者が備えるべきこと～」というタイトルで、プレゼンテーションとグループワークからなる研修会を開催しました。今回の研修会の目的は、災害現場で活動する報道機関従事者自身と周囲の関係者、家族の心身の健康を如何に守るか、そして、災害に関する報道を通して、また、被災地での取材活動の中で、取材対象となる被災者や視聴者の心身の健康や人権を如何に守るかについて検討し、今後の取り組みに活かす形で考えを整理することにあります。災害精神医学領域で共有されている知識や考え方を紹介するとともに、災害研の研究活動の中で蓄積されてきている情報や課題と報道機関での活動の現場で体験されることを擦り合わせて、報道関係者、研究者個人としてどのようなことができるか、また、報道機関と災害研とがどのように連携し得るのかについて検討を行いました。

最初に NHK 仙台で本研修会を企画運営されている百崎満晴さんと当研究所の富田博秋教授（災害医学研究部門・災害と健康ユニット）から趣旨説明を行い、3班に別れて、これまでの取り組みの中で被災地域での取材や番組作成の中で、自身の心身に影響をもたらしたことや被災者への対応で悩んだり、困ったりしたことに関して、体験や考えの共有を無理のない範囲で行いながら、課題出しのためのグループワークを行いました。続いて、富田教授より、災害精神医学の観点から、また、東日本大震災などの事例を踏まえながら、報道関係者が自らの心身の健康を守る上で、また、被災者の心身と人権を守る上で重要と思われる点についてのプレゼンテーションを行いました。その後、参加者全員の間で、グループワークとプレゼンを踏まえて、このテーマについて考えるべき点、今後、望まれる点などについて、活発な討議が行われました。

速報番組、報道番組のいずれの取材かによっても異なるものの、被災者の人権や精神的健康を守るためにどのような配慮をどの程度行うべきかについて、また、報道関係者の心身の安全や健康をいかに守るかについても業界内での検討やコンセンサス形成を進める必要性が確認され、引き続き、何らかの形でNHK 仙台と災害研とで連携して検討を進めることとなりました。



プレゼンテーション



グループワークによる課題抽出